

食品安全委員会の運営について（令和3年4月から6月まで）（案）

1. 食品安全委員会の開催

4月：811回・812回・813回・814回（4回）

（1）食品健康影響評価の要請案件（2品目）

添加物（1品目）	・炭酸水素カリウム
遺伝子組換え食品等（1品目）	・ <i>Bacillus subtilis</i> NTI04 (<i>pHYT2TD</i>) 株を利用して生産されたα-グルコシルトランスフェラーゼ

（2）食品健康影響評価の結果通知案件（8品目）

農薬（1品目）	・ペンディメタリン <u>ADIを0.12 mg/kg 体重/日と設定し、ARfDを1 mg/kg体重と設定。</u>
動物用医薬品（1品目）	・アルベンダゾール <u>アルベンダゾール及びアルベンダゾールスルホキシドのグループADIをアルベンダゾールとして0.01 mg/kg 体重/日と設定。</u>
薬剤耐性菌（1品目）	・家畜に使用する亜鉛バシトラシン <u>亜鉛バシトラシンが家畜（牛、豚及び鶏）に使用されることにより出現し、食品を介してヒトの健康上の危害因子となる可能性のある薬剤耐性菌はないと判断した。したがって、家畜に亜鉛バシトラシンを使用することにより選択された薬剤耐性菌が、食品を介してヒトの健康に影響を与える可能性は無視できる程度と考えた。</u>
遺伝子組換え食品等（5品目）	・JPBL006株を利用して生産されたキシラナーゼ ・JPAo004株を利用して生産されたキシラナーゼ ・JPAo005株を利用して生産されたキシラナーゼ ・JPBL004株を利用して生産されたホスホリパーゼ ・JPBL005株を利用して生産されたホスホリパーゼ <u>「遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物の安全性評価基準」（平成16年3月25日食品安全委員会決定）に基づき評価した結果、ヒトの健康を損なうおそれはないと判断。</u>

（3）その他

「残留農薬の食品健康影響評価における公表文献の取扱いについて」及び「残留農薬の食品健康影響評価における毒性試験での有害影響の判断に関する考え方」の報告並びに「残留農薬に関する食品健康影響評価指針の関係資料の一部改訂について（案）」を決定

「食品安全委員会の運営について（令和3年1月～3月）」を報告

5月：第815回・816回・817回（3回）

（1）食品健康影響評価の要請案件（1案件、14品目）

農薬（5品目）	・ブロフラニリド ・1-ナフタレン酢酸 ・シアントラニリプロール ・フェンピロキシメート ・ペンシクロン
農薬及び動物用医薬品（2品目）	・エトキサゾール ・ペルメトリン
動物用医薬品（3品目）	・エトキサゾールを有効成分とする牛の皮膚投与剤（ダニレス） ・性腺刺激ホルモン放出ホルモン・ジフテリアトキソイド結合物を有効成分とする豚の注射剤（インプロバック） ・プラジクアンテルを有効成分とするくろまぐろを含むすずき目魚類用飼料添加剤（水産用ベネサール、ハダクリーン）
遺伝子組換え食品等（4品目）	・DHA産生及び除草剤グルホシネート耐性キャノーラ（NS-B500 27-4）（食品） ・DHA産生及び除草剤グルホシネート耐性キャノーラ（NS-B500 27-4）（DP23211）（飼料） ・JPAo007株を利用して生産されたカルボキシペプチダーゼ ・JPAo008株を利用して生産されたアミノペプチダーゼ
その他（1案件）	・食品衛生法（昭和22年法律第233号）第13条第1項の規定に基づき定められた食品、添加物等の規格基準（昭和34年厚生省告示第370号）のゲンチアナバイオレット試験法及び酢酸トレンボロン試験法の追加

（2）食品健康影響評価の結果通知案件（1案件、8品目）

農薬（5品目）	・カズサホス <u>ADIを0.00025 mg/kg体重/日、ARfDを0.005 mg/kg体重と設定。</u> ・クレトジム <u>ADIを0.01 mg/kg体重/日、ARfDを1 mg/kg体重と設定。</u> ・フェナザキン <u>ADIを0.0046 mg/kg体重/日、ARfDを0.1 mg/kg体重と設定。</u> ・ブロフラニリド <u>食品安全基本法第11条第1項第2号に該当。</u> ・ウニコナゾールP <u>ADIを0.02 mg/kg体重/日、一般の集団に対するARfDを1 mg/kg体重、妊婦又は妊娠している可能性のある女性に対するARfDを0.05 mg/kg体重と設定。</u>
---------	---

動物用医薬品（２品目）	・マデュラマイシン ・ロベニジン 『暫定基準が設定された動物用医薬品及び飼料添加物に係る食品健康影響評価の考え方について』の３の（１）に該当する成分であると判断され、現行のリスク管理の範囲で使用される限りにおいて、その食品健康影響は無視できる程度と考えられる。
動物用医薬品及び飼料添加物（１品目）	・ハロフジノン 『暫定基準が設定された動物用医薬品及び飼料添加物に係る食品健康影響評価の考え方について』の３の（１）に該当する成分であると判断され、現行のリスク管理の範囲で使用される限りにおいて、その食品健康影響は無視できる程度と考えられる。
その他（１案件）	・食品衛生法（昭和２２年法律第２３３号）第１３条第１項の規定に基づき定められた食品、添加物等の規格基準（昭和３４年厚生省告示第３７０号）のゲンチアナバイオレット試験法及び酢酸トレンボロン試験法の追加 食品安全基本法第１１条第１項第１号に規定する食品健康影響評価を行うことが明らかに必要でないときに該当

（３）その他

- ・「飼料添加物に関する食品健康影響評価指針（案）」を決定

６月：第８１８回・８１９回・８２０回・８２１回・８２２回（５回）

（１）食品健康影響評価の要請案件（２案件、１品目）

添加物（１品目）	・フェロシアン化カリウム
農薬及び動物用医薬品（１案件）	・農薬及び動物用医薬品４０品目の食品中の残留基準の設定
飼料添加物（１案件）	・飼料添加物の試験法の改正

（２）食品健康影響評価の結果通知案件等（２案件、３４品目）

農薬（１２品目）	・プロパルギット ADIを0.0098 mg/kg体重/日、ARfDを1 mg/kg体重と設定。 ・ポリオキシンD亜鉛塩 ADIを7.2 mg/kg体重/日と設定、ARfDは設定する必要がないと判断。 ・ポリオキシン複合体 ADIを2.5 mg/kg体重/日と設定、ARfDは設定する必要がないと判断。 ・オキサチアピプロリン
----------	--

	<u>ADIを3.4 mg/kg体重/日と設定し、ARfDは設定する必要がないと判断。</u> ・ピリベンカルブ <u>ADIを0.039 mg/kg体重/日、ARfDを1.1 mg/kg体重と設定。</u> ・ベンチアバリカルブイソプロピル <u>ADIを0.069 mg/kg体重/日と設定、ARfDは設定する必要がないと判断。</u> ・フェナリモル <u>ADIを0.006 mg/kg体重/日、一般の集団に対するARfDを0.03 mg/kg体重、妊婦又は妊娠している可能性のある女性に対するARfDを0.017 mg/kg体重と設定。</u> ・ベントゾン <u>ADIを0.09 mg/kg体重/日、ARfDを0.5 mg/kg体重と設定。</u> ・ホラムスルフロン <u>ADIを0.5 mg/kg体重/日と設定し、ARfDは設定する必要がないと判断。</u> ・M C P A <u>ADIを0.0019 mg/kg体重/日、ARfDを0.32 mg/kg体重と設定。</u> ・ピラフルフェンエチル <u>ADIを0.17 mg/kg体重/日と設定し、ARfDは設定する必要がないと判断。</u> ・フルフェノクスロン <u>ADIを0.037 mg/kg体重/日と設定し、ARfDは設定する必要がないと判断。</u>
農薬及び動物用医薬品 (1 案件、2 品目)	・シフルトリン及びbeta-シフルトリン <u>ADIを0.023 mg/kg体重/日、ARfDを0.023 mg/kg体重と設定。</u> ・スピノサド <u>ADIを0.024 mg/kg体重/日と設定し、ARfDは設定する必要がないと判断。</u> ・農薬及び動物用医薬品40品目の食品中の残留基準の設定 <u>今回新たに残留基準が設定されても摂取量の増加は僅かで、いずれも当委員会が有する食品健康影響評価の結果の範囲内に収まるものであることから、今回の改正によって人の健康に及ぼす影響が変わるものではなく、食品安全基本法第11条第1項第2号の「人の健康に及ぼす悪影響の内容及び程度が明らかであるとき」に該当。</u>

動物用医薬品（５品目）	・アルベンダゾールを有効成分とするすずき目魚類の飼料添加剤（スポチール100） <u>本製剤が適切に使用される限りにおいては、食品を通じてヒトの健康に影響を与える可能性は無視できる程度と考えられる。</u> ・エトキサゾールを有効成分とする牛の皮膚投与剤（ダニレス） <u>本製剤が適切に使用される限りにおいては、食品を通じてヒトの健康に影響を与える可能性は無視できる程度と考えられる。</u> ・性腺刺激ホルモン放出ホルモン・ジフテリアトキソイド結合物を有効成分とする豚の注射剤（インプロバック） <u>本製剤が適切に使用される限りにおいては、食品を通じてヒトの健康に影響を与える可能性は無視できる程度と考えられる。</u> ・プラジクアンテルを有効成分とするくろまぐろを含むすずき目魚類用飼料添加剤（水産用ベネサール、ハダクリーン） <u>本製剤が適切に使用される限りにおいては、食品を通じてヒトの健康に影響を与える可能性は無視できる程度と考えられる。</u> ・プラジクアンテル <u>ADIを0.30mg/kg体重/日と設定。</u>
動物用医薬品及び飼料添加物（１品目）	・バシトラシン <u>「暫定基準が設定された動物用医薬品及び飼料添加物に係る食品健康影響評価の考え方について」の３の（１）に該当する成分であると判断。</u>
飼料添加物（１案件、３品目）	・飼料添加物の試験法の改正 <u>飼料添加物の品質を確保することを目的に定められているものであり、今後適用される試験法についても従前と同等の運用がなされ、規格基準の遵守に係る担保措置に変更はないことから、本改正によって人の健康に影響を及ぼすものではなく、食品安全基本法第１１条第１項第１号に規定する食品健康影響評価を行うことが明らかに必要でないときに該当。</u> ・安息香酸 <u>飼料添加物としての評価においては許容一日摂取量（ADI）を考慮する必要は特段なく、飼料添加物として通常使用される限りにおいて、食品に残留することにより人の健康を損なうおそれのないことが明らかであると考えた。</u> ・安息香酸を有効成分とする飼料添加物 <u>適切に使用される限りにおいては、食品を通じてヒトの健康に影響を与える可能性は無視できる程度と考えた。</u>

	・ <i>Trichoderma reesei</i> JPTR003株を用いて生産されたムラミダーゼ濃縮・精製物を原体とする飼料添加物製剤 <u>適切に使用される限りにおいては、食品を通じてヒトの健康に影響を与える可能性は無視できる程度と考えた。</u>
遺伝子組換え食品等（8品目）	・ BML780 MDT06-221株を利用して生産されたα-アミラーゼ ・ Morph TG#626株を利用して生産されたα-グルコシダーゼ ・ JPAN003株を利用して生産されたグルコアミラーゼ ・ JPAN007株を利用して生産されたヘミセルラーゼ <u>「遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物の安全性評価基準」（平成16年3月25日食品安全委員会決定）に基づき評価した結果、ヒトの健康を損なうおそれはないと判断。</u> ・ JPTR003株を利用して生産されたムラミダーゼ <u>「遺伝子組換え飼料及び飼料添加物の安全性評価の考え方」（平成16年5月6日食品安全委員会決定）に基づき審議した結果、改めて「遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物の安全性評価基準」（平成16年3月25日食品安全委員会決定）に準じて評価する必要はなく、当該飼料添加物を摂取した家畜に由来する畜産物について安全上の問題はないと判断。</u> ・ JPAN005 株を利用して生産されたペクチナーゼ <u>「遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物の安全性評価基準」（平成16年3月25日食品安全委員会決定）に基づき評価した結果、ヒトの健康を損なうおそれはないと判断した。</u> ・ 除草剤グリホサート誘発性雄性不稔並びに除草剤ジカンバ、グルホシネート、アリルオキシアルカノエート系及びグリホサート耐性トウモロコシMON87429系統（食品） <u>「遺伝子組換え食品（種子植物）の安全性評価基準」に基づき評価した結果、ヒトの健康を損なうおそれはないと判断。</u> ・ 除草剤グリホサート誘発性雄性不稔並びに除草剤ジカンバ、グルホシネート、アリルオキシアルカノエート系及びグリホサート耐性トウモロコシMON87429系統（飼料） <u>「遺伝子組換え飼料及び飼料添加物の安全性評価の考え方」に基づき評価した結果、改めて「遺伝子組換え食品（種子植物）の安全性評価基準」に準じて安全性評価を行う必要はなく、当該飼料を摂取した家畜に由来する畜産物について安全上の問題はないと判断。</u>
薬剤耐性菌に関するワーキンググループ（1品目）	・ 家畜に使用するスルホンアミド系合成抗菌剤 ①スルホンアミド系合成抗菌剤単剤 <u>家畜（牛、馬、豚及び鶏）に使用された結果として出現し、食品を介してヒトの健康上の危害因子となる可能性のある薬</u>

	剤耐性菌はないと判断した。 したがって、家畜にスルホンアミド系合成抗菌剤単剤を使用することにより選択された薬剤耐性菌が、食品を介してヒトの健康に影響を与える可能性は無視できる程度と考えた。 ②スルホンアミドとトリメトプリム又はオルメトプリムの配合剤（ST合剤等） 動物用医薬品として牛、豚及び鶏に使用された結果としてハザードである黄色ブドウ球菌又は大腸菌が選択され、牛、豚及び鶏由来の畜産食品を介してヒトがハザードにばく露され、ヒト用抗菌性物質による治療効果が減弱又は喪失する可能性は否定できないが、リスクの程度は低度であると考えた。
アレルギーを含む食品に関するワーキンググループ（1品目）	・アレルギーを含む食品（卵） アレルギー症状の誘発には個人差があり、個人レベルでみると数μgという微量の鶏卵タンパク質によりアレルギー症状が誘発されることもあるため、鶏卵アレルギーに限らず食物アレルギー患者は医師の指示の下に加工食品を摂取する必要があるが、現在のアレルギーを含む食品に関する表示制度があることにより、おおむね鶏卵アレルギー患者において、表示義務対象の加工食品ではアレルギー症状が誘発されないと判断される。 したがって、現在のアレルギーを含む食品に関する表示制度は、「卵」についてはおおむね妥当であると判断した。
鉛ワーキンググループ（1品目）	・鉛 これまでの疫学研究による知見を総合的に判断すると、血中鉛濃度1～2μg/dL程度であっても、小児の神経行動学的発達や成人の腎機能等になんらかの影響がある可能性が示唆される。しかし、影響によっては、複数の疫学研究で一貫した結果がみられないこと、交絡を完全には排除しきれず、純粋な鉛ばく露のみの影響を評価するのは困難であること、鉛ばく露と観察された影響との因果関係を推定するための証拠が不十分であること、観察された影響の臨床上あるいは公衆衛生上の意義が不明確であること等の理由から、現時点では、疫学研究データを用いて、有害影響を及ぼさない血中鉛濃度を導き出すことは困難であると判断した。 現在の我が国における平均的な血中鉛濃度は、1μg/dL程度あるいはそれ以下であると考えられ、疫学研究の結果からなんらかの影響が示唆される血中鉛濃度1～2μg/dLと近いと考えられた。そのため、今後も、鉛ばく露低減のための取組が必要であると考えられる。

（３）その他

- ・食品安全モニターからの随時報告（令和2年4月～令和3年3月）を報告。0601
- ・令和2年食中毒発生状況の概要を報告
- ・平成27年度に自ら評価案件として採択された「アレルギー物質を含む食品」については、これまでに収集した情報を取りまとめて公表し、これをもって自ら評価としての食品健

健康影響評価を終了することを決定

- ・アレルギーを含む食品に関するワーキンググループの廃止を決定
- ・「食品健康影響評価のためのリスクプロファイル～鶏肉等における *Campylobacter jejuni/coli*～（改訂版）」を決定
- ・令和２年度食品安全委員会運営状況報告書を決定
- ・六価クロムワーキンググループの廃止を決定
- ・平成２０年９月５日付け厚生労働省発食安第０９０５００２号をもって意見を求められた事項について調査審議を行う専門調査会は、器具・容器包装専門調査会から汚染物質等専門調査会とすることを決定

２．専門調査会等の運営（全２７回）

専門調査会等名	開催回数	調査審議案件
企画等	１回	・令和２年度食品安全委員会運営状況報告書について ・令和３年度食品安全委員会が自ら行う食品健康影響評価の案件選定の進め方について ・令和３年度食品安全委員会緊急時対応訓練について ・その他
添加物	１回	・添加物に関する食品健康影響評価指針について
農薬第三	１回	・ピラフルフェンエチル ・フルフェノクスロン
農薬第四	３回	・ノニルフェノールスルホン酸銅 ・イプロジオン
農薬第五	２回	・メトミノストロビン ・ペルメトリン ・ペンシクロン
動物用医薬品	４回	・クマホス ・ルバベグロン ・塩化ジデシルジメチルアンモニウム
微生物・ウイルス	１回	・カンピロバクターのリスクプロファイル ・令和２年度食品安全確保総合調査
遺伝子組換え食品等	３回	・JPAo003株を利用して生産されたリパーゼ ・JPAN006株を利用して生産されたリパーゼ ・除草剤グルホシネート耐性及び稔性回復性カラシナ RF3 ・JPAN009株を利用して生産されたグルコアミラーゼ ・ <i>Bacillus subtilis</i> NTI04 (pHYT2TD) 株を利用して生産されたα-グルコシルトランスフェラーゼ ・DHA産生及び除草剤グルホシネート耐性キャノーラ (NS-B50027-4) ・LFS 株を利用して生産されたリパーゼ
肥料・飼料等	４回	・フェノキシメチルペニシリン ・アンピシリン ・ナイカルバジン ・カルバドックス ・ニフルスチレン酸ナトリウム ・ロキササルゾン
栄養成分関連添加物	２回	・25-ヒドロキシコレカルシフェロール

ワーキンググループ		
薬剤耐性菌ワーキンググループ	1 回	・ 評価指針改訂の検討 ・ AMRアクションプランに係る食安委行動計画の進捗状況確認
鉛ワーキンググループ	2 回	・ 鉛の食品健康影響評価について
ぶどう酒の製造に用いる添加物に関するワーキンググループ	2 回	・ 炭酸水素カリウム ・ フェロシアン化カリウム

3. 意見交換会の開催等

(1) 講師派遣（全2回、うち委員0回）

開催日	開催地	講演会名	依頼者	対象者
5/14	横浜市	ifia/HFE JAPAN2021 (テーマ：食品安全委員会の役割) (テーマ：リスクコミュニケーションの現状と課題) (テーマ：食品の残留農薬に関するリスク評価と国際整合性)	(株)食品科学新聞社	事業者
6/21	長浜市	生物生産学概論 (テーマ：リスク分析による食品の安全確保と食品安全委員会の役割)	長浜バイオ大学	学生

(2) 訪問学習（全1回）

開催日	内容	対象者	依頼者
6/15	・ 食品安全委員会の役割 ・ 評価調整官（医系技官）との情報交換 ・ 第820回食品安全委員会傍聴（Web開催）	学生	防衛医科大学

※ 意見交換会及び講座なし。

4. 情報提供

Facebook、ブログ

健康に被害を及ぼすおそれのある案件、国民の関心が高い案件についての機動的な

情報提供。

■ 4 月：14記事

閲覧数（Facebook）約23,242件/月、（ブログ）約5,165件/月

投稿日	記事内容
2	【食品安全委員会 今週の公表事項 3/29～4/2】
5	【いわゆる「健康食品」に関する19のメッセージ③】同じ食品や食品成分を長く続けて摂った場合の安全性は正確にはわかっていません
7	令和3年度 食品安全委員会運営計画を公表しました
8	【いわゆる「健康食品」について安全な選択をするため～19のメッセージ～ の動画を公開しました】
9	【食品安全委員会 今週の公表事項 4/5～4/9】
12	【いわゆる「健康食品」に関する19のメッセージ④】「健康食品」として販売されているからといって安全ということではありません
16	【食品安全委員会 今週の公表事項 4/12～4/16】
19	Webサイト豆知識 ～YouTube紹介ページをリニューアルしました！～
20	【いわゆる「健康食品」に関する19のメッセージ】健康食品とは？
23	【食品安全委員会 今週の公表事項 4/19～4/23】
26	【いわゆる「健康食品」に関する19のメッセージ⑤】「天然」「自然」「ナチュラル」などのうたい文句は「安全」を連想させるが、科学的には「安全」を意味するものではない。
27	令和3年度調査事業の公募（2課題）について（期間：令和3年5月31日（月）12:00）
28	【編集後記：卯月】新型コロナウイルス感染症と食品について
30	【食品安全委員会 今週の公表事項 4/26～4/30】

■ 5 月：11記事

閲覧数（Facebook）約17,928件/月、（ブログ）約2,601件/月

投稿日	記事内容
7	【キッズボックス】毒のある植物に気をつけて！（2021年4月号）

	【食品安全委員会 今週の公表事項 5/3～5/7】
12	【家庭で食中毒にならないために①】 つけない
14	【食品安全委員会 今週の公表事項 5/10～5/14】
18	【家庭で食中毒にならないために②】 ふやさない
21	【キッズボックス】 食物アレルギーってどんなもの？（2021年5月号）
21	【食品安全委員会 今週の公表事項 5/17～5/21】
24	食品安全委員会企画等専門調査会の専門委員（非常勤）の公募について（期間：令和3年6月17日（木）書類必着）
26	【家庭で食中毒にならないために③】 やっつける
28	【食品安全委員会 今週の公表事項 5/24～5/28】
31	【編集後記：皐月】 キッズボックスをぜひご覧ください！

■ 6月：21記事

閲覧数（Facebook）約**34,341**件/月、（ブログ）約**2,611**件/月

投稿日	記事内容
2	【食品安全モニターからの報告を公表しました】
3	【再掲】 食品安全委員会企画等専門調査会の専門委員（非常勤）の公募について（期間：令和3年6月17日（木）書類必着）
4	【食品安全委員会 今週の公表事項 5/31～6/4】
7	今日は世界食品安全の日です① ～動画「食品安全はみんなの仕事」を公開しました～
	今日は世界食品安全の日です② ～【キッズボックス】6月7日は世界食品安全の日（2021年6月号）～
8	【お知らせ】「アレルギーを含む食品（卵）」の評価結果とQ&Aを公表しました。
10	【再掲】 食品安全委員会企画等専門調査会の専門委員（非常勤）の公募について（期間：令和3年6月17日（木）書類必着）
11	【食品安全委員会 今週の公表事項 6/7～6/11】

16	防衛医科大学校の「公衆衛生学」研修を実施しました
17	食中毒予防のための下ごしらえ① 野菜は洗う
28	【食品安全委員会 今週の公表事項 6/14～6/18】
22	食中毒予防のための下ごしらえ② 魚介類は洗う
23	【食品安全モニターの意識調査結果を公表しました】
24	長浜バイオ大学への講師派遣を行いました
25	【食品安全委員会 今週の公表事項 6/21～6/25】
28	食品安全委員会の英文電子ジャーナル「Food Safety - The Official Journal of Food Safety Commission」Vol. 9, No.2を公開しました。
	"Food Safety - The Official Journal of the Food Safety Commission of Japan" Volume 9, Number 2 has just been published.
	新型コロナウイルス感染症と食品について～効果をうたった商品に注意！～
29	食中毒予防のための下ごしらえ③ 食肉は洗わない
	【お知らせ】鉛の食品健康影響評価結果と鉛の評価書に関するQ&Aを公表しました。
30	【編集後記：水無月】現体制での最後の委員会でした&世界食品安全の日動画視聴のお礼

YouTube

食品の安全性に関する科学的な知識の普及啓発や、その他食品の安全に関する情報についての動画による情報発信

(4～6月に公開した動画の合計視聴回数 2,865回、チャンネル登録者数 362人)

公開月日	記事内容	視聴回数 (公開日～現在)
4月7日	動画紹介 いわゆる「健康食品」について 安全な選択をするために ～19のメッセージ～	289回
4月7日	その1 いわゆる「健康食品」について安全な選 択をするために ～19のメッセージ～ 食品としての安全性について	616回
4月7日	その2 いわゆる「健康食品」について安全な選 択をするために ～19のメッセージ～	283回

	「健康食品としての安全性」について	
4月7日	その3 いわゆる「健康食品」について安全な選択をするために ～19のメッセージ～ 「健康食品」を摂る人と摂る目的について	212回
4月7日	その4 いわゆる「健康食品」について安全な選択をするために ～19のメッセージ～ 「健康食品」の情報について・「健康食品」の摂取について	360回
6月7日	食品安全はみんなの仕事	874回
6月7日	Safe food now for a healthy tomorrow (English-subtitled)	231回

食品健康影響評価の審議状況

2021/6/30現在

区分	諮問案件						自ら評価
	要請件数 注1、2)	うち 令和3年度分	審議中 注3)	意見 募集中 注4)	評価終了 件数	うち 令和3年度分	評価終了 注5)
添加物	298	2	3		295		
栄養成分添加物	2		1		1		
香料	7				7		
農薬	1291	8	144	1	1146	26	
うちポジティブリスト関係	543		133		410	6	
うち清涼飲料水	25				25		
うち飼料中の残留農薬基準	59		17		42	2	
動物用医薬品	636	4	23		613	7	2
うちポジティブリスト関係	137		22		115	1	
器具・容器包装	22		2		20	1	
汚染物質等	67				67	1	4
うち清涼飲料水	52				52	1	
微生物・ウイルス	21				21		2
プリオン	67		8		59		14
かび毒・自然毒	9				9		5
遺伝子組換え食品等	352	5	22	5	325	13	
新開発食品	91				91		3
肥料・飼料等	310		44		266	7	
うちポジティブリスト関係	143		38		105	4	
薬剤耐性菌	69		8		61	3	1
高濃度にジアシルグリセロールを含む食品に関するWG	1				1		
食品による窒息事故に関するWG	1				1		
放射性物質の食品健康影響に関するWG	2				2		
アレルゲンを含む食品に関するワーキンググループ							1
その他(指定成分、アルミニウム等)	2				2		2
合計	3248	19	255	6	2987	58	34

- (注) 1 リスク管理機関から、評価要請後に取り下げ申請があった場合には、その分を要請件数から減じている。
2 評価の過程で新たに審議する必要がある案件が生じた場合には、評価終了時にその案件数を要請件数に加算している。
3 「審議中」欄には、審議継続の案件のほか、今後検討を開始するものを含む。
4 「意見募集中」欄には、意見情報の募集を締め切った後に検討中のものも含む。
5 自ら評価案件については、「評価終了」の欄では、複数省庁に答申したもの、答申が複数案件となったもの等について、その数を記入しているものもある。
6 「飼料中の残留農薬基準」欄については、ポジティブリスト制度の導入に際して、飼料中の残留基準が設定された農薬についての食品安全基本法第24条第2項に基づく意見聴取案件数である。
7 「薬剤耐性菌」欄には、肥飼料・微生物合同調査会(H18.3.6～H27.8.24)で審議したものも含む。

委員会の意見の聴取に関する案件の審議状況

(2021年6月30日現在)

参考2

I 専門調査会において検討中、または今後検討を開始するもの

接受日	要請元	食品健康影響評価の対象	
2003/7/3	厚	清涼飲料水の規格基準を改正すること（汚染物質1物質）	1
2003/12/8	農	薬剤耐性菌 飼料添加物として指定された抗菌性物質、動物用医薬品のうち、飼料添加物として指定されている抗菌性物質と同一又は同系統で薬剤耐性の交差が認められる抗菌性物質により選択される薬剤耐性菌※（水生動物に使用するテトラサイクリン系抗生物質及びマクロライド系抗生物質。）	2
2004/10/29	農	動物用医薬品 アンピシリンナトリウムを有効成分とする牛の注射剤（注射用ビクシリン）[肥][耐]、動物用医薬品 チアンフェニコールを有効成分とする牛及び豚の注射剤（ネオマイゾン注射液及びバシット注射液）[耐]	3
2005/2/14	厚	農薬 ジコホール	1
2005/8/5	農	動物用医薬品 スルファメトキサゾール及びトリメトプリムを有効成分とする豚の飲水添加剤（動物用シノラル液）[肥]、動物用医薬品 ホスホマイシンを有効成分とする牛の注射剤（動物用ホスミシンS（静注用））[耐]	2
2005/9/13	厚	動物用医薬品 アンピシリンナトリウム[肥]、スルファメトキサゾール[肥]、	2
2006/7/18	厚	動物用医薬品 アンピシリン☆[肥]、スルファメトキサゾール☆[肥]	2
2006/7/18	厚	農薬 ジコホール☆、	1
2006/12/19	厚	農薬 フリラゾール☆	1
2007/1/15	厚	農薬 イマゼタピルアンモニウム塩☆、ピノキサデン☆	2
2007/1/15	厚	動物用医薬品 クマホス☆	1
2007/2/6	厚	農薬 スピロキサミン☆	1
2007/2/6	厚	動物用医薬品 アレスリン☆、クロルマジノン、スルフイソゾール	3
2007/3/6	厚	農薬 トリチコナゾール☆	1
2007/3/6	厚	動物用医薬品 イソシンコメロン酸ニプロピル☆	1
2007/3/20	厚	動物用医薬品 スルファチアゾール☆[肥]、スルファジメトキシ☆[肥]、スルファモメトキシ☆[肥]	3
2007/5/22	厚	動物用医薬品 フェノキシメチルペニシリン☆[肥]	1
2007/6/5	厚	農薬 メソスルフロンメチル☆、スルフェントラゾン☆	2
2007/8/28	厚	動物用医薬品 ジクロキサシリン☆[肥]	1
2007/10/2	厚	農薬 ジクロメジン<一部>☆	2
2007/12/18	厚	農薬 クロピラリド☆、イソキサジフェンエチル☆	2
2008/3/11	厚	農薬 酸化プロピレン☆、プロディファコウム	2
2008/3/25	厚	農薬 イプロバリカルブ☆、スルホスルフロン、ピリデート、フッ化スルフリル	4
2008/6/3	厚	動物用医薬品 トビシリン[肥]	1
2008/7/8	厚	農薬 クロキントセットメキシル☆、クロジナホッププロパルギル☆	2
2008/7/8	厚	器具・容器包装 ビスフェノールAがヒトの健康に与える影響について※	1
2008/9/5	厚	器具・容器包装 カドミウム	1
2009/2/3	厚	農薬及び動物用医薬品 ホキシム☆	2
2009/2/9	厚	農薬 エチオン☆、オキシデメトンメチル☆、ジクロラン☆、ジノカップ☆、フェンプロピモルフ☆、ベナラキシル☆、ホレート☆	7
2009/3/24	厚	農薬 パラチオンメチル☆、フェナミホス☆	2
2009/3/24	厚	農薬及び動物用医薬品 ジクロルボス及びナレド☆	2
2010/2/16	厚	動物用医薬品 クロキサシリン☆[肥]	1
2010/2/16	厚	対象外物質 アスタキサンチン☆[肥]、β-アポ-8'-カロチン酸エチルエステル☆[肥]、β-カロテン☆[肥]、クエン酸☆[肥]、酒石酸☆[肥]、トウガラシ色素☆[肥]、乳酸☆<農薬用途もあり>[肥]、マリーゴールド色素☆[肥]、メナジオン☆[肥]、レチノール☆[肥]	11
2010/3/1	厚	農薬 フルロキシピル☆	1

I 専門調査会において検討中、または今後検討を開始するもの

接受日	要請元	食品健康影響評価の対象	
2010/5/11	厚	農薬 クロルデン☆	1
2010/8/12	厚	農薬 ハロキシホップ☆	1
2010/9/13	厚	農薬 クロマゾン☆、トリクロピル☆	2
2010/9/27	厚	農薬 酸化フェンブタズ☆	1
2010/11/12	厚	農薬 イマザリル☆、ジフルフェンゾピル☆、ジメチピン☆、テルブホス☆、トリアスルフロン☆、パラチオン☆、ビンクロゾリン☆、モノクロトホス☆	8
2010/11/15	農	農薬 テルブホス〈飼〉☆	1
2010/12/10	厚	農薬及び動物用医薬品 クロルフェンビンホス☆	2
2010/12/10	厚・農	農薬及び動物用医薬品 メトプレン☆〈一部〈飼〉〉	3
2011/1/24	厚	農薬 ペンコナゾール☆	1
2011/1/24	厚	動物用医薬品 セフロキシム☆[肥]	1
2011/2/10	厚	農薬 エンドスルフアン☆、クロリムロンエチル☆、クロルタールジメチル☆	3
2011/3/25	厚	農薬 エタメツルフロンメチル☆、ジスルホトン☆、プロモキシニル☆	3
2011/3/25	厚	動物用医薬品 ジミナゼン☆	1
2011/4/19	厚	添加物 カルミン	1
2011/4/25	農	農薬 プロモキシニル☆〈飼〉	1
2011/9/22	厚	農薬 EPTC☆、アミノピラリド☆、イオドスルフロンメチル☆、2,4-DB☆、クロルスルフロン☆、シクロキシジム☆、ジフェンゾコート☆、テクナゼン☆、ニコスルフロン☆、マレイン酸ヒドラジド☆、メトスルフロンメチル☆	11
2011/10/11	厚	農薬 ジクロホップメチル☆、トリベヌロンメチル☆、ピクロラム☆、フェノキサプロップエチル☆、ブタフェナシル☆、フルオメツロン☆、アトラジン☆	7
2011/10/11	農	農薬 アトラジン☆〈飼〉	1
2011/11/18	厚	農薬 トラルコキシジム☆、フェノキシカルブ☆、プロスルフロン☆	3
2011/12/19	厚	プリオン 牛海綿状脳症（BSE）対策の見直し（オランダ）	1
2012/1/23	厚	農薬及び動物用医薬品 シハロトリン☆	2
2012/1/23	農	農薬 エチオン☆〈飼〉、ホレート☆〈飼〉、シハロトリン☆〈飼〉、ジクロルボス及びナレド☆〈飼〉	4
2012/1/23	厚	動物用医薬品 スルファジミジン☆[肥]	1
2012/3/26	厚	農薬 リムスルフロン☆	1
2012/3/26	厚	農薬及び動物用医薬品 エマメクチン安息香酸塩☆	2
2012/5/21	厚	農薬 4-クロルフェノキシ酢酸☆、トリデモルフ☆、フラムプロップメチル☆	3
2012/7/18	厚	農薬 テフルトリン☆	1
2012/8/21	厚	農薬 フサライド☆、フルスルファミド☆	2
2012/8/21	厚	動物用医薬品 カルバドックス☆[肥]	1
2012/9/18	厚	農薬 メコプロップ☆	1
2013/1/22	農	農薬 クロルピリホスメチル☆〈飼〉、クロルフェンビンホス☆〈飼〉、シマジン☆〈飼〉、パラチオン☆〈飼〉	4
2013/1/30	厚	農薬 クロルピリホスメチル☆、シマジン☆	2
2013/3/12	厚	農薬 アイオキシニル☆、イブロジオン☆、エテホン☆、オキサミル☆、カルフェントラゾンエチル☆、クロリダゾン☆、ターバシル☆、ピリミホスメチル☆、フルシトリネート☆、ホルクロルフェニユロン☆、メタ	13
2013/3/12	農	農薬 ピリミホスメチル☆	1
2013/4/2	厚	プリオン プリオン ポーランドから輸入される牛肉及び牛の内臓について※	1
2013/6/10	農	農薬 γ-BHC☆〈飼〉、ジメトエート☆〈飼〉、パラコート☆〈飼〉、メチダチオン☆〈飼〉	4
2013/6/12	厚	農薬 アラニカルブ☆、イマザキン☆、ジウロン☆、シプロコナゾール☆、ジメトエート☆、パラコート☆、フルキンコナゾール☆	7

I 専門調査会において検討中、または今後検討を開始するもの

接受日	要請元	食品健康影響評価の対象	
2013/8/20	厚	農薬 DBEDC■<一部☆>、ノニルフェノールスルホン酸銅■<一部☆>、イマザモックスアンモニウム塩☆、ヒメキサゾール☆、メトリブジン☆、リニュロン☆	8
2013/8/20	厚	農薬及び動物用医薬品 ジヒドロストレプトマイシン及びストレプトマイシン☆[肥]	2
2013/12/10	厚	動物用医薬品 ナイカルバジン☆[肥]	1
2014/9/9	厚	農薬 ピラゾリネート☆	1
2015/1/8	厚	プリオン スウェーデンから輸入される牛肉及び牛の内臓 ※	1
2015/5/14	厚	プリオン スイス及びリヒテンシュタインから輸入される牛肉及び牛の内臓※	1
2015/9/30	厚	プリオン イタリアから輸入される牛肉及び牛の内臓※	1
2015/12/18	厚	プリオン 牛海綿状脳症（BSE）国内対策の見直し※	1
2017/4/19	厚	農薬 ピレトリン☆	1
2017/8/3	厚	プリオン 英国から輸入される牛、めん羊及び山羊の肉及び内臓 ※	1
2017/11/30	厚	遺伝子組換え食品等 ミラクリン発現トマト（TU-IP105B-1）（食品）■	1
2017/12/19	農	遺伝子組換え食品等 ミラクリン発現トマト（TU-IP105B-1）（飼料）■	1
2018/7/4	農	動物用医薬品 バルネムリン塩酸塩を有効成分とする豚の飼料添加剤（エコノア1%プレミックス及び同10%プレミックス）■[耐]	1
2019/1/10	厚	添加物 25-ヒドロキシコレカルシフェロール■	1
2019/2/27	農	動物用医薬品 アモキシシリン水和物を有効成分とする牛及び豚の注射剤（アモスタックLA注）■[耐]	1
2019/10/24	厚	遺伝子組換え食品等 チョウ目害虫抵抗性サトウキビ CTC175-A■、GA02-1191株を利用して生産されたL-グルタミン酸ナトリウム■	2
2020/2/13	厚	動物用医薬品 ジニトルミド ☆[肥]	1
2020/3/17	厚	動物用医薬品 塩化ジデシルジメチルアンモニウム☆、オルトジクロロベンゼン☆、グリカルピラミド☆、クロステボル☆、ジブチルサクシネート☆、チオプロニン☆、トリブロムサラン☆、ニタルソン☆、ノルジェストメット☆、ヒドロコルチゾン☆、マホプラジン☆	11
2020/3/17	厚	飼料添加物 オルメトプリム☆、ジアベリジン☆、スルファクロルピリダジン☆、スルファジアジン☆、スルファドキシム☆、スルファモイルダブソン☆、ニフルスチレン酸ナトリウム☆、ピリメタミン☆、ロキササルソン☆、アンプロリウム☆、エトパベート☆、スルファキノキサリン☆、エンラマイシン☆、	13
2020/5/13	厚	プリオン 「ドイツから輸入される牛、めん羊及び山羊の肉及び内臓」※	1
2020/7/13	厚	遺伝子組換え食品等 LFS 株を利用して生産されたリパーゼ■	1
2020/9/24	厚	Ra α 3114株を利用して生産されたプロテアーゼ■	1
2020/9/24	厚	RG-V1株を利用して生産されたL-バリン■	1
2020/10/16	農	遺伝子組換え食品等 長鎖多価不飽和脂肪酸含有及びイミダゾリノン系除草剤耐性セイヨウナタネLBFLFK（飼料）■、	1
2020/10/19	厚	遺伝子組換え食品等 長鎖多価不飽和脂肪酸含有及びイミダゾリノン系除草剤耐性セイヨウナタネLBFLFK（食品）■	1
2020/11/11	厚	動物用医薬品 ルバベグロン■	1
2020/11/20	厚	遺伝子組換え食品等 MAM株を利用して生産されたα-アミラーゼ■	1
2021/1/7	厚	遺伝子組換え食品等 線虫抵抗性及び4-ヒドロキシフェニルピルビン酸ジオキシゲナーゼ阻害型除草剤耐性ダイズGMB151（食品）■、収量増加及び除草剤グルホシネート耐性トウモロコシ（DP202216）（食品）■	2
2021/1/12	農	遺伝子組換え食品等 線虫抵抗性及び4-ヒドロキシフェニルピルビン酸ジオキシゲナーゼ阻害型除草剤耐性ダイズGMB151（飼料）■、収量増加及び除草剤グルホシネート耐性トウモロコシ（DP202216）（飼料）■	2
2021/2/9	厚	農薬 イプロジオン■、	1

I 専門調査会において検討中、または今後検討を開始するもの

接受日	要請元	食品健康影響評価の対象	
2021/2/9	厚	動物用医薬品・飼料添加物 ナイカルバジン■	1
2021/2/4	厚	遺伝子組換え食品等 コウチュウ目害虫抵抗性及び除草剤グルホシネート耐性トウモロコシ (DP23211) (飼料) ■	1
2021/2/9	厚	遺伝子組換え食品等 コウチュウ目害虫抵抗性及び除草剤グルホシネート耐性トウモロコシ (DP23211) (食品) ■	1
2021/3/18	厚	遺伝子組換え食品等 JPAN009株を利用して生産されたグルコアミラーゼ■	1
2021/3/30	厚	添加物 炭酸水素カリウム	1
2021/4/22	厚	遺伝子組換え食品等 Bacillus subtilis NT104 (pHYT2TD) 株を利用して生産された α -グルコシルトランスフェラーゼ■	1
2021/5/19	厚	農薬 1-ナフタレン酢酸■、シアントラニリプロール■、フェンピロキシメート■、ペンシクロン■	4
2021/5/19	厚	農薬及び動物用医薬品 エトキサゾール■、ペルメトリン■	2
2021/5/14	農	遺伝子組換え食品等 DHA産生及び除草剤グルホシネート耐性キャノーラ (NS-B50027-4) (飼料) ■、DHA産生及び除草剤グルホシネート耐性キャノーラ (NS-B50027-4) (食品) ■、JPAo007株を利用して生産されたカルボキシペプチダーゼ■、JPAo008株を利用して生産されたアミノペプチダーゼ■	4
2021/5/26	厚	添加物 フェロシアン化カリウム	1

(注)

☆印は、ポジティブリスト制度に伴う食品安全基本法第24条第2項に基づく意見聴取案件である。

※印は、食品安全基本法第24条第3項に基づく意見聴取案件である。

■印は、企業申請案件である（平成22年1月1日以降委員会において説明したもののみ）。

◎印は、食品安全基本法第23条第1項第2号による自ら評価である。

[肥]印は、肥料・飼料等専門調査会が担当する評価案件である。

[耐]印は、薬剤耐性菌に関する評価が必要なもの。

委員会の意見の聴取に関する案件の審議状況

(2021年6月30日現在)

参考2

I 専門調査会において検討中、または今後検討を開始するもの

接受日	要請元	食品健康影響評価の対象	
2003/7/3	厚	清涼飲料水の規格基準を改正すること（汚染物質1物質）	1
2003/12/8	農	薬剤耐性菌 飼料添加物として指定された抗菌性物質、動物用医薬品のうち、飼料添加物として指定されている抗菌性物質と同一又は同系統で薬剤耐性の交差が認められる抗菌性物質により選択される薬剤耐性菌※（水生動物に使用するテトラサイクリン系抗生物質及びマクロライド系抗生物質。）	2
2004/10/29	農	動物用医薬品 アンピシリンナトリウムを有効成分とする牛の注射剤（注射用ビクシリン）[肥][耐]、動物用医薬品 チアンフェニコールを有効成分とする牛及び豚の注射剤（ネオマイゾン注射液及びバシット注射液）[耐]	3
2005/2/14	厚	農薬 ジコホール	1
2005/8/5	農	動物用医薬品 スルファメトキサゾール及びトリメトプリムを有効成分とする豚の飲水添加剤（動物用シノラル液）[肥]、動物用医薬品 ホスホマイシンを有効成分とする牛の注射剤（動物用ホスミシンS（静注用））[耐]	2
2005/9/13	厚	動物用医薬品 アンピシリンナトリウム[肥]、スルファメトキサゾール[肥]、	2
2006/7/18	厚	動物用医薬品 アンピシリン☆[肥]、スルファメトキサゾール☆[肥]	2
2006/7/18	厚	農薬 ジコホール☆、	1
2006/12/19	厚	農薬 フリラゾール☆	1
2007/1/15	厚	農薬 イマゼタピルアンモニウム塩☆、ピノキサデン☆	2
2007/1/15	厚	動物用医薬品 クマホス☆	1
2007/2/6	厚	農薬 スピロキサミン☆	1
2007/2/6	厚	動物用医薬品 アレスリン☆、クロルマジノン、スルフイソゾール	3
2007/3/6	厚	農薬 トリチコナゾール☆	1
2007/3/6	厚	動物用医薬品 イソシンコメロン酸ニプロピル☆	1
2007/3/20	厚	動物用医薬品 スルファチアゾール☆[肥]、スルファジメトキシ☆[肥]、スルファモメトキシ☆[肥]	3
2007/5/22	厚	動物用医薬品 フェノキシメチルペニシリン☆[肥]	1
2007/6/5	厚	農薬 メソスルフロンメチル☆、スルフェントラゾン☆	2
2007/8/28	厚	動物用医薬品 ジクロキサシリン☆[肥]	1
2007/10/2	厚	農薬 ジクロメジン<一部☆>	2
2007/12/18	厚	農薬 クロピラリド☆、イソキサジフェンエチル☆	2
2008/3/11	厚	農薬 酸化プロピレン☆、プロディファコウム	2
2008/3/25	厚	農薬 イプロバリカルブ☆、スルホスルフロン、ピリデート、フッ化スルフリル	4
2008/6/3	厚	動物用医薬品 トビシリン[肥]	1
2008/7/8	厚	農薬 クロキントセットメキシル☆、クロジナホッププロパルギル☆	2
2008/7/8	厚	器具・容器包装 ビスフェノールAがヒトの健康に与える影響について※	1
2008/9/5	厚	器具・容器包装 カドミウム	1
2009/2/3	厚	農薬及び動物用医薬品 ホキシム☆	2
2009/2/9	厚	農薬 エチオン☆、オキシデメトンメチル☆、ジクロラン☆、ジノカップ☆、フェンプロピモルフ☆、ベナラキシル☆、ホレート☆	7
2009/3/24	厚	農薬 パラチオンメチル☆、フェナミホス☆	2
2009/3/24	厚	農薬及び動物用医薬品 ジクロルボス及びナレド☆	2
2010/2/16	厚	動物用医薬品 クロキサシリン☆[肥]	1
2010/2/16	厚	対象外物質 アスタキサンチン☆[肥]、β-アポ-8'-カロチン酸エチルエステル☆[肥]、β-カロテン☆[肥]、クエン酸☆[肥]、酒石酸☆[肥]、トウガラシ色素☆[肥]、乳酸☆<農薬用途もあり>[肥]、マリーゴールド色素☆[肥]、メナジオン☆[肥]、レチノール☆[肥]	11
2010/3/1	厚	農薬 フルロキシピル☆	1

I 専門調査会において検討中、または今後検討を開始するもの

接受日	要請元	食品健康影響評価の対象	
2010/5/11	厚	農薬 クロルデン☆	1
2010/8/12	厚	農薬 ハロキシホップ☆	1
2010/9/13	厚	農薬 クロマゾン☆、トリクロピル☆	2
2010/9/27	厚	農薬 酸化フェンブタズ☆	1
2010/11/12	厚	農薬 イマザリル☆、ジフルフェンゾピル☆、ジメチピン☆、テルブホス☆、トリアスルフロン☆、パラチオン☆、ビンクロゾリン☆、モノクロトホス☆	8
2010/11/15	農	農薬 テルブホス〈飼〉☆	1
2010/12/10	厚	農薬及び動物用医薬品 クロルフェンビンホス☆	2
2010/12/10	厚・農	農薬及び動物用医薬品 メトプレン☆〈一部〈飼〉〉	3
2011/1/24	厚	農薬 ペンコナゾール☆	1
2011/1/24	厚	動物用医薬品 セフロキシム☆[肥]	1
2011/2/10	厚	農薬 エンドスルフアン☆、クロリムロンエチル☆、クロルタールジメチル☆	3
2011/3/25	厚	農薬 エタメツルフロンメチル☆、ジスルホトン☆、プロモキシニル☆	3
2011/3/25	厚	動物用医薬品 ジミナゼン☆	1
2011/4/19	厚	添加物 カルミン	1
2011/4/25	農	農薬 プロモキシニル☆〈飼〉	1
2011/9/22	厚	農薬 EPTC☆、アミノピラリド☆、イオドスルフロンメチル☆、2,4-DB☆、クロルスルフロン☆、シクロキシジム☆、ジフェンゾコート☆、テクナゼン☆、ニコスルフロン☆、マレイン酸ヒドラジド☆、メトスルフロンメチル☆	11
2011/10/11	厚	農薬 ジクロホップメチル☆、トリベヌロンメチル☆、ピクロラム☆、フェノキサプロップエチル☆、ブタフェナシル☆、フルオメツロン☆、アトラジン☆	7
2011/10/11	農	農薬 アトラジン☆〈飼〉	1
2011/11/18	厚	農薬 トラルコキシジム☆、フェノキシカルブ☆、プロスルフロン☆	3
2011/12/19	厚	プリオン 牛海綿状脳症（BSE）対策の見直し（オランダ）	1
2012/1/23	厚	農薬及び動物用医薬品 シハロトリン☆	2
2012/1/23	農	農薬 エチオン☆〈飼〉、ホレート☆〈飼〉、シハロトリン☆〈飼〉、ジクロルボス及びナレド☆〈飼〉	4
2012/1/23	厚	動物用医薬品 スルファジミジン☆[肥]	1
2012/3/26	厚	農薬 リムスルフロン☆	1
2012/3/26	厚	農薬及び動物用医薬品 エマメクチン安息香酸塩☆	2
2012/5/21	厚	農薬 4-クロルフェノキシ酢酸☆、トリデモルフ☆、フラムプロップメチル☆	3
2012/7/18	厚	農薬 テフルトリン☆	1
2012/8/21	厚	農薬 フサライド☆、フルスルファミド☆	2
2012/8/21	厚	動物用医薬品 カルバドックス☆[肥]	1
2012/9/18	厚	農薬 メコプロップ☆	1
2013/1/22	農	農薬 クロルピリホスメチル☆〈飼〉、クロルフェンビンホス☆〈飼〉、シマジン☆〈飼〉、パラチオン☆〈飼〉	4
2013/1/30	厚	農薬 クロルピリホスメチル☆、シマジン☆	2
2013/3/12	厚	農薬 アイオキシニル☆、イブロジオン☆、エテホン☆、オキサミル☆、カルフェントラゾンエチル☆、クロリダゾン☆、ターバシル☆、ピリミホスメチル☆、フルシトリネート☆、ホルクロルフェニユロン☆、メタ	13
2013/3/12	農	農薬 ピリミホスメチル☆	1
2013/4/2	厚	プリオン プリオン ポーランドから輸入される牛肉及び牛の内臓について※	1
2013/6/10	農	農薬 γ-BHC☆〈飼〉、ジメトエート☆〈飼〉、パラコート☆〈飼〉、メチダチオン☆〈飼〉	4
2013/6/12	厚	農薬 アラニカルブ☆、イマザキン☆、ジウロン☆、シプロコナゾール☆、ジメトエート☆、パラコート☆、フルキンコナゾール☆	7

I 専門調査会において検討中、または今後検討を開始するもの

接受日	要請元	食品健康影響評価の対象	
2013/8/20	厚	農薬 DBEDC■<一部☆>、ノニルフェノールスルホン酸銅■<一部☆>、イマザモックスアンモニウム塩☆、ヒメキサゾール☆、メトリブジン☆、リニュロン☆	8
2013/8/20	厚	農薬及び動物用医薬品 ジヒドロストレプトマイシン及びストレプトマイシン☆[肥]	2
2013/12/10	厚	動物用医薬品 ナイカルバジン☆[肥]	1
2014/9/9	厚	農薬 ピラゾリネート☆	1
2015/1/8	厚	プリオン スウェーデンから輸入される牛肉及び牛の内臓 ※	1
2015/5/14	厚	プリオン スイス及びリヒテンシュタインから輸入される牛肉及び牛の内臓※	1
2015/9/30	厚	プリオン イタリアから輸入される牛肉及び牛の内臓※	1
2015/12/18	厚	プリオン 牛海綿状脳症（BSE）国内対策の見直し※	1
2017/4/19	厚	農薬 ピレトリン☆	1
2017/8/3	厚	プリオン 英国から輸入される牛、めん羊及び山羊の肉及び内臓 ※	1
2017/11/30	厚	遺伝子組換え食品等 ミラクリン発現トマト（TU-IP105B-1）（食品）■	1
2017/12/19	農	遺伝子組換え食品等 ミラクリン発現トマト（TU-IP105B-1）（飼料）■	1
2018/7/4	農	動物用医薬品 バルネムリン塩酸塩を有効成分とする豚の飼料添加剤（エコノア1%プレミックス及び同10%プレミックス）■[耐]	1
2019/1/10	厚	添加物 25-ヒドロキシコレカルシフェロール■	1
2019/2/27	農	動物用医薬品 アモキシシリン水和物を有効成分とする牛及び豚の注射剤（アモスタックLA注）■[耐]	1
2019/10/24	厚	遺伝子組換え食品等 チョウ目害虫抵抗性サトウキビ CTC175-A■、GA02-1191株を利用して生産されたL-グルタミン酸ナトリウム■	2
2020/2/13	厚	動物用医薬品 ジニトルミド ☆[肥]	1
2020/3/17	厚	動物用医薬品 塩化ジデシルジメチルアンモニウム☆、オルトジクロロベンゼン☆、グリカルピラミド☆、クロステボル☆、ジブチルサクシネート☆、チオプロニン☆、トリブロムサラン☆、ニタルソン☆、ノルジェストメット☆、ヒドロコルチゾン☆、マホプラジン☆	11
2020/3/17	厚	飼料添加物 オルメトプリム☆、ジアベリジン☆、スルファクロルピリダジン☆、スルファジアジン☆、スルファドキシム☆、スルファモイルダブソン☆、ニフルスチレン酸ナトリウム☆、ピリメタミン☆、ロキササルソン☆、アンプロリウム☆、エトパベート☆、スルファキノキサリン☆、エンラマイシン☆、	13
2020/5/13	厚	プリオン 「ドイツから輸入される牛、めん羊及び山羊の肉及び内臓」※	1
2020/7/13	厚	遺伝子組換え食品等 LFS 株を利用して生産されたリパーゼ■	1
2020/9/24	厚	Ra α 3114株を利用して生産されたプロテアーゼ■	1
2020/9/24	厚	RG-V1株を利用して生産されたL-バリン■	1
2020/10/16	農	遺伝子組換え食品等 長鎖多価不飽和脂肪酸含有及びイミダゾリノン系除草剤耐性セイヨウナタネLBFLFK（飼料）■、	1
2020/10/19	厚	遺伝子組換え食品等 長鎖多価不飽和脂肪酸含有及びイミダゾリノン系除草剤耐性セイヨウナタネLBFLFK（食品）■	1
2020/11/11	厚	動物用医薬品 ルバベグロン■	1
2020/11/20	厚	遺伝子組換え食品等 MAM株を利用して生産されたα-アミラーゼ■	1
2021/1/7	厚	遺伝子組換え食品等 線虫抵抗性及び4-ヒドロキシフェニルピルビン酸ジオキシゲナーゼ阻害型除草剤耐性ダイズGMB151（食品）■、収量増加及び除草剤グルホシネート耐性トウモロコシ（DP202216）（食品）■	2
2021/1/12	農	遺伝子組換え食品等 線虫抵抗性及び4-ヒドロキシフェニルピルビン酸ジオキシゲナーゼ阻害型除草剤耐性ダイズGMB151（飼料）■、収量増加及び除草剤グルホシネート耐性トウモロコシ（DP202216）（飼料）■	2
2021/2/9	厚	農薬 イプロジオン■、	1

I 専門調査会において検討中、または今後検討を開始するもの

接受日	要請元	食品健康影響評価の対象	
2021/2/9	厚	動物用医薬品・飼料添加物 ナイカルバジン■	1
2021/2/4	厚	遺伝子組換え食品等 コウチュウ目害虫抵抗性及び除草剤グルホシネート耐性トウモロコシ (DP23211) (飼料) ■	1
2021/2/9	厚	遺伝子組換え食品等 コウチュウ目害虫抵抗性及び除草剤グルホシネート耐性トウモロコシ (DP23211) (食品) ■	1
2021/3/18	厚	遺伝子組換え食品等 JPAN009株を利用して生産されたグルコアミラーゼ■	1
2021/3/30	厚	添加物 炭酸水素カリウム	1
2021/4/22	厚	遺伝子組換え食品等 Bacillus subtilis NT104 (pHYT2TD) 株を利用して生産された α -グルコシルトランスフェラーゼ■	1
2021/5/19	厚	農薬 1-ナフタレン酢酸■、シアントラニリプロール■、フェンピロキシメート■、ペンシクロン■	4
2021/5/19	厚	農薬及び動物用医薬品 エトキサゾール■、ペルメトリン■	2
2021/5/14	農	遺伝子組換え食品等 DHA産生及び除草剤グルホシネート耐性キャノーラ (NS-B50027-4) (飼料) ■、DHA産生及び除草剤グルホシネート耐性キャノーラ (NS-B50027-4) (食品) ■、JPAo007株を利用して生産されたカルボキシペプチダーゼ■、JPAo008株を利用して生産されたアミノペプチダーゼ■	4
2021/5/26	厚	添加物 フェロシアン化カリウム	1

(注)

☆印は、ポジティブリスト制度に伴う食品安全基本法第24条第2項に基づく意見聴取案件である。

※印は、食品安全基本法第24条第3項に基づく意見聴取案件である。

■印は、企業申請案件である（平成22年1月1日以降委員会において説明したもののみ）。

◎印は、食品安全基本法第23条第1項第2号による自ら評価である。

[肥]印は、肥料・飼料等専門調査会が担当する評価案件である。

[耐]印は、薬剤耐性菌に関する評価が必要なもの。

Ⅲ 食品安全委員会において既に食品健康影響評価を終了したもの（令和3年度）

通知日	通知先	食 品 健 康 影 響 評 価 の 対 象	
2021/4/13	農	薬剤耐性菌 亜鉛バシトラシン（薬剤耐性菌）※	1
2021/4/13	厚	遺伝子組換え食品等 JPBL006株を利用して生産されたキシラナーゼ■	1
2021/4/13	厚	農薬 ペンディメタリン■、ペンディメタリン（飼料中）■	2
2021/4/27	厚	動物用医薬品 アルベンダゾール■	1
2021/4/27	厚	遺伝子組換え食品等 JPAo004株を利用して生産されたキシラナーゼ■、JPAo005株を利用して生産されたキシラナーゼ■、JPBL004株を利用して生産されたホスホリパーゼ■、JPBL005株を利用して生産されたホスホリパーゼ■	4
2021/5/11	厚	肥料・飼料等 ハロフジノン☆、マデュラマイシン☆、ロベニジン☆	3
2021/5/18	厚	農薬カズサホス■、クレトジム■、フェナザキン■	3
2021/5/25	厚	農薬 ウニコナゾールP■、プロフラニリド■	2
2021/6/1	厚	遺伝子組換え食品等 Morph TG#626株を利用して生産されたα-グルコシダーゼ■、JPTR003株を利用して生産されたムラミダーゼ■、JPAN003株を利用して生産されたグルコアミラーゼ■、JPAN007株を利用して生産されたヘミセルラーゼ■、BML780 MDT06-221株を利用して生産されたα-アミラーゼ■	5
2021/6/8	農	農薬 シフルトリン（飼料中）☆	1
2021/6/8	厚	農薬及び動物用医薬品 シフルトリン☆	2
2021/6/8	厚	農薬及び動物用医薬品 シフルトリン	1
2021/6/8		アレルギー アレルゲンを含む食品 卵◎	
2021/6/8	厚	農薬 ポリオキシシン（ポリオキシシンD亜鉛塩及びポリオキシシン複合体）■〈一部☆〉、プロパルギット■	3
2021/6/8	農	動物用医薬品 アルベンダゾールを有効成分とするすずき目魚類の飼料添加剤（スポチール100）■、エトキサゾールを有効成分とする牛の皮膚投与剤（ダニレス）■、性腺刺激ホルモン放出ホルモン・ジフテリトキソイド結合物を有効成分とする豚の注射剤（インプロバック）■	3
2021/6/15	厚	農薬 オキサチアピプロリン■、ピリベンカルブ■、ベンチアバリカルブイソプロピル■	3
2021/6/15	厚	農薬及び動物用医薬品 スピノサド■	1
2021/6/15	農	動物用医薬品 プラジクアンテルを有効成分とするくろまぐろを含むすずき目魚類用飼料添加剤（水産用ベネサル、ハダクリーン）■、プラジクアンテル	2
2021/6/22	農	薬剤耐性菌 スルファキノキサリン※、スルフォンアミド系合成抗菌剤※	2
2021/6/22	厚	農薬 ベンタゾン☆、ベンタゾナー、ベンタゾン（飼料中）☆、フェナリモル☆、ホラムスルフロン■、MCPA■	6
2021/6/22	厚	農薬及び動物用医薬品 はちみつへの農薬・動薬残留基準設定	1
2021/6/22	厚	遺伝子組換え食品等 JPAN005株を利用して生産されたペクチナーゼ■	1
2021/6/22	厚	肥料・飼料等 バシトラシン☆、Trichoderma reesei JPTR003株を用いて生産されたムラミダーゼ濃縮物・精製物を原体とする飼料添加物■、安息香酸■、安息香酸を有効成分とする飼料添加物■	4
2021/6/29	厚	農薬 ピラフルフェンエチル■、フルフェノクスロン■	2

Ⅲ 食品安全委員会において既に食品健康影響評価を終了したもの（令和３年度）

通知日	通知先	食 品 健 康 影 響 評 価 の 対 象	
2021/6/29	厚	化学物質・汚染物質 鉛（清涼飲料水）、食品及び器具・容器包装中の鉛に関する食品健康影響評価の実施について◎	1
2021/6/29	厚	器具・容器包装 鉛	1
2021/6/29	厚	遺伝子組換え食品等 除草剤グリホサート誘発性雄性不稔並びに除草剤ジカンバ、グルホシネート、アリルオキシアルカノエート系及びグリホサート耐性トウモロコシMON87429系統（食品）■、除草剤グリホサート誘発性雄性不稔並びに除草剤ジカンバ、グルホシネート、アリルオキシアルカノエート系及びグリホサート耐性トウモロコシMON87429系統（飼料）■	2

（注）

☆印は、ポジティブリスト制度に伴う食品安全基本法第２４条第２項に基づく意見聴取案件である。

※印は、食品安全基本法第２４条第３項に基づく意見聴取案件である。

■印は、企業申請案件である（平成２２年１月１日以降委員会において説明したもののみ）。

◎印は、食品安全基本法第２３条第１項第２号による自ら評価である。

[肥]印は、肥料・飼料等専門調査会が担当する評価案件である。

[耐]印は、薬剤耐性菌に関する評価が必要なもの。

IV その他

通知日	通知先	件名
2004/1/30	厚・農・環	遺伝子組換え食品（種子植物）の安全性評価基準 遺伝子組換え植物の掛け合わせについての安全性評価の考え方
2004/3/18	農	普通肥料の公定規格に関する食品健康影響評価の考え方
2004/3/25	厚・農・環	遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物の安全性評価基準
2004/5/6	厚・農・環	遺伝子組換え飼料及び飼料添加物の安全性評価の考え方
2004/8/5	厚・農	特定保健用食品の安全性評価に関する基本的考え方
2004/9/30	農	家畜等への抗菌性物質の使用により選択される薬剤耐性菌の食品健康影響に関する評価指針
2005/4/28	厚・農・環	遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物のうち、アミノ酸等の最終産物が高度に精製された非タンパク質性添加物の安全性評価の考え方
2006/6/29	厚・農	暫定基準が設定された農薬等の食品健康影響評価の実施手順
2007/9/13	厚・農	食品により媒介される微生物に関する食品健康影響評価指針（暫定版）
2008/6/26	厚・農・環	遺伝子組換え食品（微生物）の安全性評価基準
2010/5/27	厚	添加物に関する食品健康影響評価指針
2016/5/17	厚	香料に関する食品健康影響評価指針
2017/7/18	厚	添加物に関する食品健康影響評価指針（改正） 栄養成分関連添加物に関する食品健康影響評価指針 添加物（酵素）に関する食品健康影響評価指針
2018/4/10	厚・農	動物用医薬品に関する食品健康影響評価指針
2018/9/25	厚・農	飼料添加物に関する食品健康影響評価指針 動物用医薬品に関する食品健康影響評価指針（改訂）
2019/5/28	厚	食品用器具及び容器包装に関する食品健康影響評価指針
2019/10/1	厚・農	残留農薬に関する食品健康影響評価指針
2019/10/29	厚・農	食品健康影響評価におけるベンチマークドーズ法の活用に関する指針
2019/11/13	厚・農	遺伝子組換え植物の掛け合わせについての安全性評価の考え方
2020/3/24	厚・農	食品安全委員会専門調査会等運営規定 改正
2020/6/16	厚・農	残留農薬の食品健康影響評価におけるコリンエステラーゼ阻害作用を有する農薬の取扱いについて
2020/7/7	厚・農	暫定基準が設定された動物用医薬品及び飼料添加物に係る食品健康影響評価の考え方について
2020/10/6	厚	食品用器具及び容器包装に関する食品健康影響評価指針（改訂）
2021/4/6	厚・農	残留農薬に関する食品健康影響評価指針（改訂）
2021/5/18	厚・農	飼料添加物に関する食品健康影響評価指針